

喜田 子どもは学校を休んで家の仕事を手伝うという農繁休暇というのがあったのではないですか。

仁木 生きるためには学校教育も生活できることに力を入れ、それぞれの地域が特性を生かして取り組んでいたのではないのでしょうか。立江中学校には学校田があり、全員で田植え、稲刈りをし五目寿司を作って食べました。大変楽しみでした。また職業科は山西先生が担当されておりました。今の体育館のところに畑があり、ナスやキュウリを栽培していました。生徒が協力しトイレの汲み出しをして野菜にかけ育てていました。

喜田 私の時には給食はありませんでしたが、皆さんの時にはありましたか。

森本 給食は私たちの時に初めてできたと思います。

仁木 私は遠いので弁当でした。当時の弁当には漬物が入っていたので臭いがしました。女子の中には隠して食べていた生徒がいました。

稲田 私は麦飯と白米の混合のご飯でした。中学校2年までは、お昼ご飯に自宅へ帰らせてくれなかったのですが、3年生になったら自宅へ帰ってお昼ご飯を食べさせてくれたので、自転車で帰って食べました。

仁木 家ではサツマイモの入ったご飯で弁当は麦入りのご飯でした。

稲田 写真を見ると仁木さんのころは実習田も広がったようですね。たくさん生徒たちが畑をつくっているようですが、私たちの時にはこんなに広くなかったのが、全員が畑に入ったら多すぎるので、家庭で農業をしている人たちが畑に入って、他の人は畑の外で遊んでいたこともあったように思います。確か向山に小山があって、その辺りに実習田があったように思います。

関貫 お百姓さんのような実習はしていたようですが、時間割はあったのでしょうか。

仁木 時間割はありました。何教科も掛け持ちの先生もおりました。

関貫 職員名簿も探して今日の資料に入れていますが、昭和22年度のスタートの時の職員の名前ははっきりしません。週1回の朝会などはありましたか。校長先生のお話を覚えているとかないのでしょうか。

喜田 どのような話をしたかまでは忘れましたが、この先生はこわいとか、今でこそ体罰もいわれているが、先生によっては大変厳しい指導があったこと

も覚えています。それが今思うと良かった思い出で、それがあって私たちも引き締まったところもありました。それだけ子どもたちも多く、家族としてもそんなに保護的には育てていなかったのではないのでしょうか。

森本 私はそのころから10年ほどあとになりますが、先生方は宿直があり学校に泊まっていたので、学校裏の用水でよく穴釣りをしたり、ウナギを釣ってきたりして先生にあげたこともありました。時にはウナギを蒲焼きにして食べたりもしました。これがこの時代の先生と生徒の親しみのあるつながりの一つでもあります。

関貫 森本さんが中学生のころには、中間テストなどはあったのでしょうか。

森本 ありましたね。それは今とは違い、成績が廊下に大きく張り出されていたんですよ。合計点の高い順に上位30人から40人くらいが張り出されました。自分の名前が上位にある人はいいですが、そうでない人はいやでしたね。

喜田 私の時にはなかったように思います。

稲田 私の時には成績を張り出すこともありました。それと文武両道ということで運動も大事なので、運動会に一番取ったら点数をつけてくれて、優秀な場合にはメダルをくれて励ますようなこともありました。

関貫 森本さんのころには、高校に進学する生徒が多かったのでしょうか。

森本 高校への進学はすごく多くなっていたと思います。たぶん180人くらいの生徒のうち、40人ほどが就職をし、残りの生徒が高校へ進学したように思います。

稲田 僕らの時には、半分くらいが高校へ進学をして、残り半分くらいが就職をしていたように思います。

森本 私は戦後生まれですが、戦後になる昭和21年生まれからは高校へ行く生徒が増えました。もうひとつは、私たちの時は高校まで行けたらいいかなという世の中の雰囲気でしたが、たくさん生徒が高校へ進学しだして大学のことを知り、のちに大学への進学を考える人も増えてきたのではないのでしょうか。そして昭和21年から23年生まれあたりの団塊の世代の人は、学力競争の時代に入っていたように思います。

関貫 私の時も小松島中学校で百番くらいまで、成